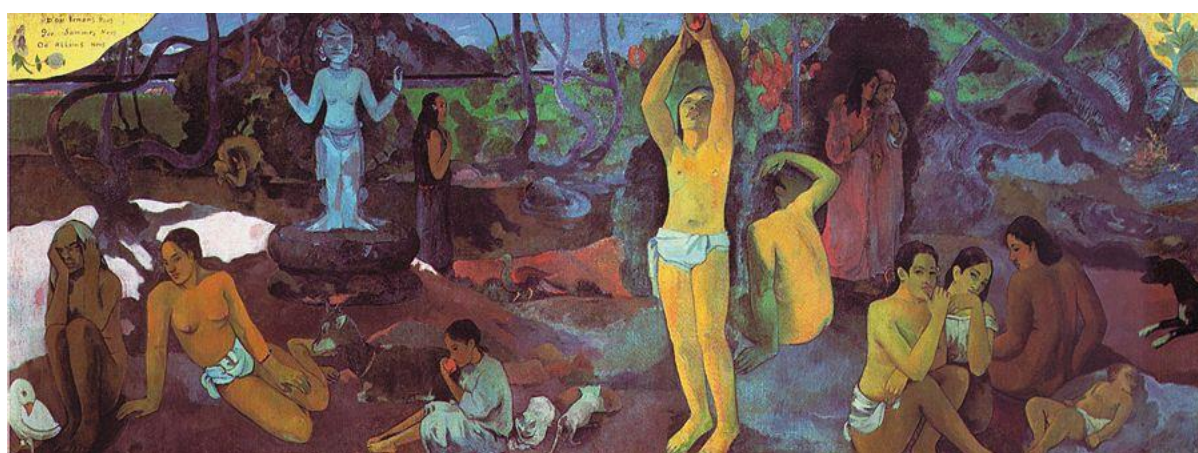


# 宗教学研究室紀要

THE ANNUAL REPORT ON PHILOSOPHY OF RELIGION



2020 vol.17

京都大学 文学研究科 宗教学専修 編

オンライン刊行物 [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/rel-top\\_page/](http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/religion/rel-top_page/)

<公募論文>

不協和の社会

— レヴィナスとクセナキス

松葉類 (3)

シモーヌ・ヴェイユにおけるペルソナと非ペルソナ的なもの

中田和希 (19)

井筒俊彦『意識の形而上学』の哲学的思惟

— 存在と意識の多層構造の観点から

林哲平 (41)

<研究ノート>

西田幾多郎における「主体」の概念

森レイ (71)

真理と恥

— エマニュエル・レヴィナスの脱 - 存在論的思索

若林和哉 (84)

編集後記

(99)

——宗教学研究室紀要編集委員——

杉村靖彦	京都大学大学院文学研究科	教授
伊原木大祐	京都大学大学院文学研究科	准教授
長坂真澄	早稲田大学国際教養学部	准教授
根無一行	大谷大学文学部	非常勤講師
下田和宣	京都大学文学研究科	非常勤講師・人文学連携研究者

——第 17 号執筆者紹介——

松葉類	京都大学文学部	非常勤講師
中田和希	京都大学大学院文学研究科	博士課程
林哲平	京都大学大学院文学研究科	博士課程
森レイ	京都大学大学院文学研究科	修士課程
若林和哉	京都大学大学院文学研究科	修士課程

\*\*\*\* 編集後記 \*\*\*\*

本年度の研究室紀要では、計五本の論考を掲載することができました。うち二論考は、今号から修士課程の学生にも向けて募集した研究ノートに掲載となっております。レヴィナス、クセナキス、シモーヌ・ヴェイユ、井筒俊彦、西田幾多郎と多様な人物が扱われ、「不協和」、「恥」、「ペルソナ」および「非ペルソナのなもの」、「存在と意識の多層構造」、「主体」と多様な主題が論じられた今号が、多くの読者の心を打ち、また研究の益になることを願ってやみません。

各論文の査読にご協力いただきました先生方には、この場を借りて心より御礼申し上げます。また、編集作業にご協力くださった先輩方や友人にも感謝致します。

(林哲平・森レイ・若林和哉記)

宗教学研究室紀要 第 17 号 (京都大学 文学研究科 宗教学専修 編)

2021年3月31日発行

Articles

La société dissonante : Levinas et Xenakis

Rui MATSUBA 3

La personne et l'impersonnel chez Simone Weill

Kazuki NAKATA 19

Philosophical Thought in Toshihiko Izutsu's *Metaphysics of Consciousness* from the Multilayered Structures of Being and Consciousness Viewpoint

Teppei HAYASHI 41

The Concept of "Shutai (主体)" in Kitaro Nishida

Rei MORI 71

La vérité et la honte : la pensée ex-ontologique chez Emmanuel Levinas

Kazuya WAKABAYASHI 84